

家康公の悲哀!スポット

幼少期から家族との別れがあり、田原城主の裏切り、人質生活、父の暗殺、正室と嫡男の死など、数々の悲劇に見舞われた家康公。その悲運にまつわる城や寺をご紹介します。

歴史トリア
義理の祖父に裏切られる

家康公の父母が離縁した後、父広忠の後妻に入ったのが田原城主、戸田宗光の娘である真喜姫だった。つまり義理の母の父親に誘拐されて売られてしまったのである。



愛知・田原
1 田原城跡
たはらじょうせき

渥美半島を治めた戸田氏の堅固な城

海へのアクセスと防御のメリットを重視して、干潟に囲まれた丘に築城。4代城主の戸田宗光は、家康公を人質として駿府に送る任務を今川義元から受けていた。しかしながら今川氏に離反して家康公の身柄を奪取し、織田家に売り渡してしまったという。結局、義元の怒りを買って攻め込まれ、戸田氏は滅亡した。この丸跡は国の重要文化財も展示する歴史博物館になっている。

① 0531-22-1720 (田原市博物館) ② 愛知県田原市田原町巴江11-1
③ 9:00~17:00 (入館~16:30) ④ 月曜 (祝日の場合は翌日) ⑤ ¥310

静岡・浜松
2 二俣城跡
ふたまたじょうあと

戦国の無情を感じる嫡男信康の最後の地

家康公と武田軍との激戦があったことで知られる城。天竜川に面した天然の岩を持つ難攻不落の城として有名だ。また、ここは家康公が嫡男松平信康を切腹させた悲劇の場所でもある。この時、切腹の介錯を命ぜられた服部半蔵は主君に刃を向けられず、後に仏門に入るということになったという話もある。

① 053-452-1634 (浜松市観光インフォメーションセンター) ② 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣990 ③ 見学自由

関連する人物
松平信康
まつだいらのぶひさ

家康公と築山殿の長男。家康公が浜松へ本城を移した際に岡崎城主となる。徳川軍の数々の戦に出陣し活躍した。

静岡・浜松
3 清瀧寺
せいらいじ

松平信康を供養する天竜川沿いの静かな寺

織田信長に謀反の疑いをかけられて二俣城で切腹した家康公の嫡男、松平信康。ここは、その切腹を命じた家康公が信康を供養するために建立した寺であり、清瀧寺と名付けたのも家康公自身だったという。天竜川沿いの小高い森で、信康に思いを馳せながら静かに参拝したい。

本堂内には信康の位牌などを安置。清瀧寺信康の廟

① 053-452-1634 (浜松市観光インフォメーションセンター) ② 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣1405 ③ 境内自由

愛知・岡崎
2 松應寺
しょうおうじ

生き別れて、死別した父広忠を供養した寺

家康公が人質生活を送っていた時に、家臣に刺殺された父広忠。1549(天文18)年に月光庵の地にある能見ヶ原に埋葬された。家康公は今川方の人質として熱田から駿府へ向かう途中、お参りをしたとされる。後に岡崎に戻った家康公は、月光庵の地に松應寺を建立して亡き父の菩提を弔った。

2022年5月に、きれいに修復された御廟所

① 愛知県岡崎市松本町42 ② 境内自由

静岡・浜松
3 西来院
せいらいん

非業の死を遂げた築山殿が眠る墓所

家康公の正室である築山殿の廟堂(月窟廟)が置かれる寺。築山殿と長男信康は、信康の正室徳姫に謀反の疑いをかけられ、徳姫の父織田信長は激昂。信長との関係を重んじた家康公が家臣に命じて築山殿を殺害させた。首は家臣によって岡崎へ持ち帰られ、亡骸は西来院へ葬られた。

① 053-452-1634 (浜松市観光インフォメーションセンター) ② 静岡県浜松市中区広沢2-10-1 ③ 境内自由

関連する人物
築山殿
つぎやまどの

今川義元の重臣の関口親永の娘。家康公と結婚して長男信康、長女亀姫をもうけるが、後に悲劇に見舞われる。



5 浜松 1579(天正7) 清瀧寺
自害した松平信康が清瀧寺で弔われる

4 浜松 1579(天正7) 二俣城跡
松平信康が自害する

3 浜松 1579(天正7) 西来院
築山殿が殺害されて、西来院に葬られる

2 岡崎 1560(永祿3) 松應寺
父広忠の菩提を弔うために建立

1 田原 1547(天文16) 田原城跡
田原城主に裏切られ、人質として尾張へ

家族との別れに始まる
家康公の悲話を辿る

結婚、人質、養子などの仕組みが、一族を守るための政治手法だった戦国時代。血縁を重視した武家社会において、隣国との安全の担保として結婚させたり、同盟国の裏切り防止のために人質を出したりと、家族の身柄が戦術的に利用されていた。家康公の父である松平広忠も織田家に攻撃されたため政略として、有力者である緒川城主水野忠政の娘の於大と結婚する。しかしその跡継ぎの水野信元が織田側についていたために、於大と離縁。そのため家康公は3歳にして母と生き別れることになった。

母と3歳で生き別れ、6歳で人質生活となり、父とは8歳で死別。その後正室と嫡男を失うなど、自身の不運や家族との悲しい経験を持つ家康公。逸話に登場する場所や、弔いのために建立した寺などを知らう。

なっていました。その後も田原城主の裏切りに遭って織田家の人質になったり、8歳の時には広忠が暗殺されたりと不運が重なった。そして最大の悲劇といえるのが、正室築山殿と嫡男松平信康の死である。信康は、幼くして織田信長の娘徳姫と結婚する。そして信康21歳の時、徳姫は築山殿と信康が武田家と内通しているという謀反の疑いを記した訴状を父信長に送る。これに怒った信長は家康公に2人の処刑を要求。家康公は熟慮の末に、信長の要求を受け入れ、築山殿は家康公の家臣の手にかかって佐鳴湖畔で殺害され、信康は二俣城で自害することになった。

5 悲運に見舞われつつ、武家社会を生きる